A－107 農家主婦の栄養摂取状況と消費エネルギー量について

山田家政短大　　石垣志津子

目的　農業事情の急激な変化に伴い、主婦の労働過重や、健康阻害が問題化されているが、労働に応じた栄養が補給されているか否や、具体的に検討された事例が少ない。そこで、演者は、特定地域を設定して、消費エネルギー量と栄養摂取状況の関係を追究し、適切な栄養指導が実施されることを目的として、調査研究を行なった。

方法　対象は、愛知県中央部に位置する、平地農村地帯の安城市農家より、無作為抽出により、40戸を選定し、これを施設円芸農家と兼業農家の2群に分類し、調査した。期日は、昭和45年9月実施、栄養摂取状況は、国民栄養調査に準據して行ない、各種栄養素摂取量を算出し、同時に生活時間調査を、5日間行ない、「産業労働のエネルギー代謝率」により、1日の消費エネルギーを算出し、摂取状況と比較検討を試みた。

結果　施設円芸農家（ハウス農家）は、農業労働時間が長く、R、M、Fにおいても、兼業農家との差が大きく、摂取量と消費量を比較すると、ハウス農家（主婦）は、平均302cal不足し、兼業農家（主婦）は、146cal多かった。

また、蛋白質において、兼業農家の方が14.5%多く、動蛋白食率は、6.2%、兼業農家の方が高く、ハウス農家は、良質蛋白質が不足していた。

その他、脂肪、ビタミンA、B_1、B_2が、いづれもハウス農家に少なく、蓄積疲労や疾病に対する低抗力が弱いことがうなづけられる。

これらの結果より、ハウス農家に対する栄養指導を早急に強化する必要性を痛感する。